

地方自治ここにあり 首長インタビュー

# 「小さくても存在感のある村を」

## 人口約500人 奥熊野・北山村の挑戦

北山村長 奥田 貢



奥田貢北山村長

北山村は、全国で唯一の飛び地の村、そして近畿地方で人口が最も少ない村です。さまざまな面で「小さい」の形容詞を冠されるその村が平成の市町村合併を拒否して単独の道を選択して8年。様々な困難の中で光り輝く村をめざしてきました。挑戦の途上にある村について、4期目の村政を担当する奥田貢村長にお話を聞きました。聞き手は、本研究所理事長の鈴木裕範和歌山大学経済学部教授です。

### 市町村合併 単独選択は大正解

鈴木：2013年度が、スタートしました。2005年に平成の市町村合併がありました。北山村は単独を選択しました。それから8年、その歳月は奥田村政の歩みであるわけですが、村の置かれている状況は、変わりましたでしょうか。

村長：平成の大合併は、過去の合併とちがいで、理念ちゆうのが全くなかった。要は財政基盤を強くするといふ言葉をもってきて、国の出る金を減らしてというのが趣旨ですからね、まず大きくなれということだったんで、これについて僕は、もともと反対だった。ただ、非常に厳しいこといっぱい言いましたね、国は。で、市町村が今、約半分の1700ほどでしょう。

鈴木：そうですね。  
村長：僕は合併しなくて大正解だったと思つてますよ。状況はあの当時とあんまり変わってません。変わってませんが、やっぱり自分のこの地域はね、きちつと自分らが守るといふことが第一原則だといふふうに思つてます。だから、僕は、大合併は拒否して単独を選んだよかったです、それによ

つていろんな施策も逆にできたと思つてます。たとえば、早い時点で学校の耐震化が、みな終わりました。  
鈴木：そうでした。  
村長：それから、この公共施設の耐震化もほとんど終わり、いろんなことが住民のためにできたと思つてます。これは、たぶん合併しとつたらできなかったでしょうね。  
鈴木：村のやりたいことがやれたと。  
村長：この地域は、飛び地という特殊な地域ですよ。それは、やっぱりそこに住んだ者じゃないと分かりません、この地域を守るといふことからいくとね、何々市の一町内会となるよりも、独立独歩で行つた方がよかつたと思つてます。いろんな面ですよ。  
鈴木：いまのお話の中に、奥田村長の村政に対する姿勢が表れています。改めて基本的政治姿勢を伺わせてください。  
村長：さっきも言つたように、この地域は自らが守るといふのが大前提です。そのために、行政として何を

つていろんな施策も逆にできたと思つてます。たとえば、早い時点で学校の耐震化が、みな終わりました。  
鈴木：そうでした。  
村長：それから、この公共施設の耐震化もほとんど終わり、いろんなことが住民のためにできたと思つてます。これは、たぶん合併しとつたらできなかったでしょうね。  
鈴木：村のやりたいことがやれたと。  
村長：この地域は、飛び地という特殊な地域ですよ。それは、やっぱりそこに住んだ者じゃないと分かりません、この地域を守るといふことからいくとね、何々市の一町内会となるよりも、独立独歩で行つた方がよかつたと思つてます。いろんな面ですよ。  
鈴木：いまのお話の中に、奥田村長の村政に対する姿勢が表れています。改めて基本的政治姿勢を伺わせてください。  
村長：さっきも言つたように、この地域は自らが守るといふのが大前提です。そのために、行政として何を



鈴木：機構改革、行政改革

### 改革の断行と試行錯誤

なすべきか、これが一番の基本だと思つてます。だから人の真似をする必要はないし、ここはここ独自の、施策を出せばそれはそれでいい。その1つがいろんな独自のことを先駆けてやってきたつもりですけどね。まあ、批判、賛成いろいろありますよ。ありますけどね、僕自身としてはそういう思いでやってきたつもりです。

も行いました。職員の仕事の見直し、意識変革、行政のスリム化を図ってきました。

**村長**：我々は単独で生きるつもりです。職員の仕事の見直し、意識変革、行政のスリム化を図ってきました。まず行政が率先垂範をして、見本を示す。そこで、役場の組織も見直しました。議員の方にもご協力いただき、ポータスとかいろいろなものをすべてカットするとか、知恵を出すということをやってきました。職員もそうでしたし、私自身もそうです。スリム化を図って行政経費をダウンすると。当時、収入役、助役も置かないことになってやってきましたから。ただ、一定の期間が過ぎて、どうしても行政として、組織としてやっぱりやらざるを得ない部分も出てくるんですよ。だから今は、元に戻すところは戻してあります。これは当然そういうことだと思いませんね。

**鈴木**：なるほど。

**村長**：まずはスタートをして、いろいろやってみて、それで、元に戻すべきだなと思うところは戻してきて

ます。

**鈴木**：合併する以前は、課が、5つぐらいありました。**村長**：一番最初はね、それを1課にしたんです。これは、やるよね、僕の理想とはちょっと、やっぱりいろいろ軋轢が出ました。で、結局元に戻したいと、5課に。

**鈴木**：そうですか。

**村長**：今度ね、事業課会計課を2つを別途に作りた

いと思つてます。ただ人間が増えるわけやないですよ。合併当時、各課を統合して総合政策課1本にしたんです。課長1つにしたら、

みんな課長の思いで行くやろうということ、それでしばらく動いたんですが逆の面も出ます。というのは、

課長に非常に負担がかかってくる。それはもう1課で全部を見るわけですからね。これはほんま大変。それと

もちろん課長も専門、専門ではないのがある。それからやっぱりもう1つは職員の処遇改善という面も出てくる。こういうことを総合的にみたと、

それでまず分けたのは観光

産業課、これはまったく別ですよ。今、ここで商売してません。これを分けて、そのうちに福祉は福祉で、そこになってくるんです。結果としてやっぱり戻らざるを得んかな、と。

**鈴木**：現在、職員の数が。

**村長**：僕入れて25かな。

**鈴木**：確かに、住民の多様なニーズに対応しなくては

ならないし、課題も大変増えてきますね。

**村長**：どんどん専門化し複雑化してくるんです。そう

いう中でやっぱり、パート、パートで分けざるを得ない

と思いますね。そして住民福祉をやった。

いま、どんどんどんどん

公共事業が増えてくる。一

昨年9月の台風災害関係と

か、あるいはこれから国土

強靱化というのが入ってくる

と、やっぱり、事業は事業

とそれを専属にやる場所

がないと、なかなか落ち着

いてこない。それともう1

つ、会計が作った趣旨は、

やっぱり会計は会計でこの

元締めをきちつとやる。

会計管理者に会計課長がな

ってね、きちつとやる。公



地域福祉の拠点。北山村社会福祉センター

金を管理するわけですからね、と思つてます。

**鈴木**：率直に言わせていただくと、村の職員はほかの自治体だったら何人かでする仕事を1人でやってるケースが大変多い。人使いの荒い役場だなというのが、率直な感想です。

**村長**：これは、もう小さいところは仕方ないですよ。そうしないと仕事回らんです。今の会計管理者も会計管理をしながら、防災、国土安全など全然異なる仕事をもちますからね。普通のところだったらもう会計管理者は会計の仕事1本ですよ。そやのに、ここは公共事業やったりとか、もたざるを得ないんです。今回課を5つにしても、もちろんいろんなところをそれぞれがもた



大学生の“ボラバイト”でじゃばらの収穫

ざるを得んと思います。課をつくったところで課員が4人も5人もおるわけじゃありません。たとえばそうですね、いまやったら、課長1人、係員1人のスタイルです。それしかできない。総務課はね、いろいろな事業を持ちますので何人かいますし、住民福祉もおりますし、事業もおりますけども、会計課は会計課長兼会計管理者、で、その下に1人職員が付くだけで、1対1、2人ですよ。観光課は3人いますが、それでも少ないです。足らんとくは臨時職員で賄ってますけど、

今回の方針で一遍やってみよう。確かに人使い荒いっちゃあ荒いでしよう。荒いけどそれをみんなね、理解してもらわな、とても回っていかん。  
鈴木：確かに、北山村が、これからもあり続けるためには、いろいろな面で改革をしないとイケないかとは思います。  
村長：それはそうです。  
鈴木：一方ではしかし職員にあまり過剰な負担がかかると、職員の士気や意欲を下げることになる。そのへんが、難しい問題ではあるかと思うんです。  
村長：難しいです。

### きびしい村の財政 地域資源を歳入増へ

鈴木：質問を変えます。平成25年度の一般会計当初予算ですが、約8億円。  
村長：そうですね。  
鈴木：自主財源の比率ですが、これはどのくらい。  
村長：自主財源ね、まあ、これは全くありません。ほとんど交付税頼みですから、この予算書を見てく

ださい、これが歳入の内訳です。交付税が大体5億ほどある、地方交付税だけで58パーセントです。村税は8パーセントぐらい。これがもう本来の実力ですわね。  
鈴木：そうした中で、施策の大きな柱を設けて、村政を担当してこられました。1つは、産業づくりですね、その象徴的が、じゃばらですね。  
村長：そうですね、うん。  
鈴木：じゃばらは特産品からいまでは産業へと、成長しました。じゃばらによる収入は、どのくらいになるんでしょうか。  
村長：ここ2、3年はぐつと落ちてます。一番最高のときはね、平成22年で、ざっと2億7000万ありました。昨年は恐らく1億6000万台でしょう。1億ぐらい落ちてます。特に22から23で1億落ちました。大きな要因は、2つあります。1つは成る量が少なかったんです。成りもんですからね、自然相手です、大体収穫量が4割ぐらい落ちたんです。もうにそれが効いてますね。それと同時に

に例の台風12号、この影響がやっぱり。こっちに來る交通アクセスが悪くなつて、お客さんが減った。温泉もぐつと減った。それが1つですね。  
もう1つは、25年度に一遍調査してみたいと思ってるんですがね、あっちこっち各地からじゃばらが出てきだした。それが、そろそろ、とれて売れる時期になつてきたんです、長崎、愛媛、それから県内でもかつらぎ町だとか、結構いろいろ出てきています、じゃばらは。そういう影響がどの程度あるかというところはまだつかめてない。これは一遍つかんでおく必要があるというふうになってます。そういう影響があつて、最盛期から言うと、ざつと4割ぐら

い落ちたのが現状でしょう。  
鈴木：なるほど。  
村長：最盛期は2億7500万か2億8000万ぐらいありましたんでね、それが1億落ちるということは、ざつと4割ですよ。  
鈴木：道の駅おくとると合わせると、ざつと4億円を考えると。

鈴木：そういうことですね。  
村長：ということですよ。  
鈴木：それでも、いろいろと挑戦をしています。  
村長：じゃばらは、あまりにもじゃばらと名前付けた商品が多くなりすぎていることもある。これも1つの課題にはなつておるんです。もうそろそろ売れなくなる、売れないったら言葉悪いけど、もうちょっと精査して、

復活を期待。林業の現場



復活を期待。林業の現場



千変万化 奥静峡の景観 小松地区で

どれかに特化していくべきじゃないかという議論があるのは間違いないです。

これからは、地域ブランドとしての北山じゃばらを育てていきたいと思つてますけどね。

**鈴木**：地域商標ですか。

**村長**：じゃばら商売する以上は、広がりがある方が当然いい、どんどん広がるのはいいと思つてですけど、その代わり、じゃばらはやっぱり北山という、北山ブランドをきちつとやらないとほかがどんどん商売入つてきて、どんどん売れるんじ

や、これ、話になりませんのでね。

**北山村のブランド力を高める  
ジオ・パーク構想には関心**

**鈴木**：北山の元々のじゃばら

らつていうブランドを、さらにブラッシュアップしていく必要があると。

**村長**：そうですね。じゃばらと言えば北山というブランドをやつぱりきちつと作り守つていきたいということですよ。

**鈴木**：ブランドのクオリティを高める。

**村長**：そうですね。

**鈴木**：でも、北山村のオンラインワンのひとつがなくなつた。

**村長**：まあまあ、大半の人はじゃばらと言つたら、知つてる人は皆北山というふうに一応、連想はしていただきます。

**鈴木**：そうですね。

**村長**：ただ、分かりません、これから。10年先になつたら、じゃばら言うたら愛媛になつとるか分からん。我々、そういうことのないようにしたいですね。

**鈴木**：ぜひそういうふうにしてください。そのためにもブランド戦略の早急な構築が求められます。

**村長**：そうですね、そうですね。

**鈴木**：着実に実施していくことを検討していただきたいと思います。

ところで、観光北山村のもう一つの大きな柱である

筏下りを中心とした観光の村づくりですが。

**村長**：だいたい4000から5000万ぐらいいうところでしよう、収入としてはですよ。

**鈴木**：観光は、いまこの村が生きていく重要な施策ですよ。

**村長**：そうせざるを得ないでしょう。観光に特産のじゃばらをいかに引きつけていくかということになると

思います。いまはまずは観光しかない、はつきり言うて。そのためには温泉施設もうまく絡み、筏も絡み、

じゃばらも絡みということですね。

これから、僕が期待しとんのは、和歌山県も力入れていくということになつてる例のジオ、ジオですよ、ジ

オパーク。この地域全体もまさにジオ、ジオ地域ですからね。ということ、それをうまく取り組んで今後展開できるかということだと思つてます。その柱は観光筏です。

**鈴木**：ジオパーク構想に、北山としても関心をもつて

ますか。

**村長**：もつてますね、筏を過ぎた冬の間とかの観光対策が、前々からの課題だったんですよ。ジオは一つの売り込むものになるかと思つてます。古座川の一枚岩だとかの名が、候補としてぱつと出ますけど、たとえば「筏師の道」とか、いろいろなところと、古いものと組み合わせること

によつて、ジオという芽が出てくるのではないかと、七色峡なんかもまさにそう

でしょう。それから小松の方もそうでしょうしね。そういう面

でジオというの、うまく取り組んでいきたいなという気はしています。

**鈴木**：七色、小松は、すぐれた峡谷の景観です。地質的にも。

**村長**：景観ですね。それと、



北山観光の柱 観光筏下り

もう一つはね、最近ラフティングと同じように人気が出てきてる、キャニオニングですね、結構人気あるんです、溪流に入つて、体験しながら溪流登りをするというのを、民間でやっています。

前に、新しい観光資源とか、いろいろ議論していただきましたが、そういうことになつてくるんだと思うんですよ。やっぱりここは、そういうもの生かさざるを得ないでしょう。

僕は、とくに観光産業というの、基本的にはそういう、民間の力がやっぱり大きいなというふうに思います。あんまり官がどんどん引つ張るんじゃなくてね。

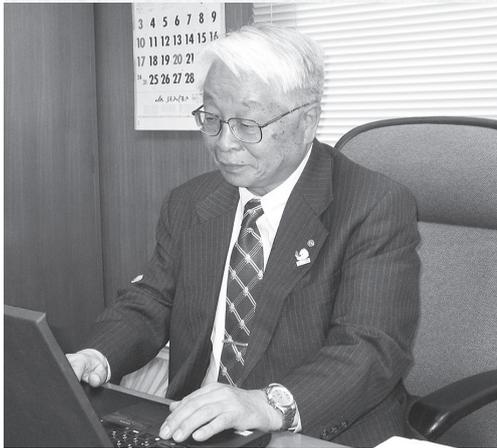
(次号に続く)

地方自治ここにあり 首長インタビュー (2)

# 北山村から日本の未来が見える

## 林業の再生で山村の復活

北山村長 奥田 貢



奥田貢北山村長

人口500人余りの近畿地方で一番小さな村・北山村。地方をとり巻く環境がきびしさを増すなか、平成の市町村合併では単独を選択。小さな村でもきらりと光る地域をめざして、地域資源であるじゃばらや観光筏を柱とした観光の村づくりを進めている。村政を担当して4期目、奥田貢村長に前回に引きつづきこれらの村づくりと課題をお聞きします。インタビューは鈴木裕範和歌山県地域自治体問題研究所理事長です。

### 地域づくりは

### 住民の力で

鈴木：北山村の地域づくりは、ともするとこれまででは行政主導だったと思います。村長：そうせざるを得なかつたんですよ。放つといってもできませんので、行政が先頭に立っただけですけどね。必ずしも僕はそれがいいなとは思っていません。鈴木：この村には、いろいろ

るな資源があります。今回は『奥熊野・北山村の民俗誌 100の話で語る村の今昔』にかかわらせていただいで、年中行事をはじめ資源化できる文化があると感じました。たとえば、七色地区のお盆の行事、地区内を長い蠟燭の灯がめぐり、揺れます。先祖を迎える風習と、人のやさしさ、悲しさ。いろんなことを教えてくれる民俗です。北山らしさ、この村らしい文化は資源です。

村長：そうですね。

鈴木：ぜひ、文化を活かす生かす村づくりをしていただきたい。

村長：「100の話で語る村の今昔」には我々が知らんことたくさんありますね、はつきり言うて。

鈴木：そうですね。

村長：七色のあれは、「せんたい」って呼ぶんですけども、七色だけなんですよ。



七色地区の初盆行事「せんたい」

ずっと道で竹の柱を立てて、そこに蠟燭を立てて。

鈴木：そうやってですね。

村長：行くわけですからね。

鈴木：お盆の、伝統的な風習がいまも残っている。

村長：そうですね。

鈴木：正月の餅花の風習も、興味深い。飛騨と北山の間をつないだ道を想像させて、楽しかったです。この村にはいろんな資源がある。

村長：「100の話」は、知らない人が結構おると思いますが。とくに若い人は。あれは、各家庭に配るように、やってるんですけどね。

鈴木：ところで、先ほどのお話ですが、村の活性化のためには住民の力が大事だ

というお話がございました。どういふふうに住民の力を引き出していくのかということなんです、どのようにお考えですか。

**村長**：これは、今までまさに役場主導でやってきたでしょう。たぶん住民ももうそれが当たり前と思つとるんでしょね。だから何かあると必ず役場なんとかしろよという、発想が出るのはまずそこにあります

僕は、住民自治は本来住民がもつと力を持つていたでいてね、いろんな発想をしていただいて、それに対して行政がいろんなことをやっていくつてというのが本来の筋だと思ふんです。ただ、今、どういふ仕掛けがいいのかちゅうのは、ほんまのところね、難しいです。ただ、そのときの1つの手助けとなるのが例えばNPOであるとかね。そういうところが、1つのがんばりどころというか、力、知恵の出どころがあるんではないんかなという気がしてね。役場でいろいろ仕掛けをして呼んで集めるとね、**鈴木**：なるほど。

**村長**：もうはつきりしていません、長続きはしません。**鈴木**：地域の中にある小さな共同体という伝統的なものを、もう一度鍛え直すことも考えられます。

**村長**：そうでしょうな、団体でがんばつてもらつてるのは、青年会です。メンバーは40人近いんかな、いろいろな取り組みをやつてくれます。

### 次の世代に どのように引き継ぐか

**鈴木**：村では、この間、若い人たちに地域に残つてもらう施策も、取り組まれてきてますね。

**村長**：しかし、これといった成果は出してないと思つてます。定住政策の一番大きなのは、やっぱり就業場所でしょう。役後継者なんか増えて、それは1つの成果かもしれないませんですけども、限られますよ。**鈴木**：筏とじゃばらですからね。

**村長**：定住政策の大きなもう1つは、や



北山村の英語塾

っぱり教育だと思つてます。だから教育環境はしっかりやろうと思つて、独自の教育やれつてことできてますけどね、これもやっぱり限度はありますね。

最近はどこでもやつてきてますけど、うちの場合はとくに学校の人数が少ないうで、将来小中一貫だと言ふとるんですが、一応、小中連携ですね。たまたま耐震対策の結果で、小学校を中学校のところに移しましたんでね、そのときに言ったのが、全部小中一貫でやりませんかと。まだ、一貫という言葉使つてませんけども、目標は元々一貫でしょう、いわゆる9年間のカリキュラムをしっかりとやり

ましよう、と。今、小学校、中学校の先生がそれぞれアイアップして、小学校に、勉強、教えに行つてます。それからあと、1つはやっぱり英語教育をしっかりと力入れようと思つて、村塾やつてます。英会話教室とそれから英語時間は普通の正規のタイムから倍ぐらい取つたんじゃないですかね、いろんな総合の学習時間を全部英語に当てたりしてやつてます。これは、特徴だと思つてます。

**鈴木**：子どもたちが、街の高校に進学して気後れしないこと、国際化時代への対応ですね。  
**村長**：レベル上がつてますよ。中学校の先生の話で、英検も一応準2級とか2級ぐらいまで取れるようになってきたから、レベルから言うたら高校生レベルぐらいまで上がつてきたと先生喜んでましたけどね。成果は出てきてるんでしょ。  
**鈴木**：保育所は、確か無料ですね。  
**村長**：無料ですね。保育所は無料化、それから小中、中学生までの医療無料化も、やつてます。

子育て支援ですよ、これはもうしつかりやろうと。教育をきちつとやることによって、親御さんがこちらで皆、子どもさんと移つて、働く場所があればベストですけど、なけりゃしょうがないから、お父さんは新宮へ行くか、あるいは和歌山へ単身赴任するか、それでも来てくれるならいいつて、始めた経過がありますが、教育関係をきちつとやろうということでは、海外修学旅行もそうです。英語教育に力を入れ、その集大成として修学旅行は海外に、とセットになつてるわけね。  
**鈴木**：最初が、確かアイルランドでしたか。  
**村長**：アイルランド2週間でした。それやつた後、先生方のいろいろな反省があつて、やっぱり子どもの体力で、アイルランドっていうのはきつい。それで去年はシンガポールになつたんです。  
**鈴木**：はい。  
**村長**：本当は、もうちょっと行つてもええなと思つてますけどね、せつかく行くんだから。アイルランドで



修学旅行は海外へ

はみんなホームステイさせ  
たんです。生きた英語を学  
べる。そこから、地元の英  
語学校に通わせました。  
2人ずつホームステイして  
…。

鈴木：子どもを大事にし、  
将来この村で残ってがんば  
れる、そういう子どもたち  
を育てたい、という願いを  
感じます。

村長：やっぱり、子どもは  
地域の宝ですからね、しっ  
かり育てて。ただ、残念な  
がらね、どこまで帰ってく  
るかどうかわかりません、  
帰ってきてほしいですけど

も、働く場所がないとい  
うのは、大きいネックにな  
りますね。

鈴木：大きな問題です。

村長：一番の就職口って本  
来は役場なんですよ。か  
といつて役場も余分に人を  
雇うことはできない。

鈴木：なるほど。子どもた  
ちの若いお父さん、お母さ  
んがここでがんばれる、そ  
ういうコミュニティを作り  
たいですね。

村長：そうですね。

### 新しいコミュニティの 構築をして 安心して住める村を

鈴木：村政のこの間をみて  
いると、ここに住んでいる  
人間のコミュニティだけで  
はなく、村外、地域外の人  
たちとつながる、そういう  
コミュニティを構築してい  
こうという、意図を感じま  
す。外部とのネットワー  
クをぜひぶん広げていますよ  
ね。

村長：村ぶろが1つの中心  
になつとるのもあると思っ  
てますけど、それ以外にね  
人が集まったことよって  
今度は、オフな格好でやつ

てくる、いわゆるネットを  
外れてリアルなやつでやる  
という、こういうのもどん  
どん生まれてきてます、も  
う1つの効果があつたと思  
ってますけどね。

鈴木：小さな村の大きなネ  
ットワークというか、そう  
したもの、徐々に北山村  
で育ちつつあるように思  
います。

もういくつかお伺いしま  
す。安倍政権が誕生して、  
アベノミクスへの期待が大  
きい。どうでしょうか、ア  
ベノミクスの風は、この奥  
熊野の北山に吹いてきてい  
ますか。

村長：今の時点でははつき  
り分かりませんね。隔々が  
実感するのには、まだ年月  
がやっぱりかかるでしょう。  
一般庶民が、我々が直に感  
じて、どんどんどんどん消  
費活動に入っていくかとい  
うのは、まだ先じゃないで  
すかね。

鈴木：国土強靱化計画があ  
ります。公共事業に対する  
期待というのは、こういう  
小さな村では大きい。

村長：あつ、これは大きい  
です。そういう意味では非  
常に、国土強靱化には期待



大阪との距離を短縮、不動トンネル

をしています。で、たぶんそ  
の結果がこれから出てくる  
んだと思いますけど、まだ  
今、まだ緒についたばかり  
ですよ。具体的にはこれ  
からどんどん議論されるん  
でしょう。国土強靱化法と  
いうのもたぶん提出される  
んでしようし、まあこれか  
ら出てくるんじゃないです  
かね。ただ今年は、とくに  
補正予算でも、前倒しのか  
なりの補正予算入ってます  
し、かつてのようなことが  
らは脱却してもらえとい  
うふうには思ってますけど。  
実は4月2日に、自民党本  
部に呼ばれてましてね、国  
土強靱化について意見を述  
べると。

鈴木：道路も、幹線、主要

なところは、お金は投じる  
んだけれども、地方の必要  
なところまで廻って来ない。  
それでも、北山村は時間距  
離にすれば、ずい分都市に  
近づいてきました。

村長：それはあるでしょう、  
間違いなしに。国道だけじ  
やなく、下北山村との間の  
不動トンネルが抜けまし  
た、これだけでうんと時間  
が短縮し、この地域から大  
阪に行くのに、一番近いの  
は僕とこです。ここから2  
時間半で大阪府庁のここへ  
行きます。和歌山へ行くよ  
り、うんと近い。そういう  
ことから観光が期待できま  
すし、ことしは伊勢神宮の  
遷宮、高速道路も熊野まで  
来ます。

それから169号は27年  
の国体までに一応全部つな  
がります。そうすると一周  
をする観光ルートが形成で  
きますね。だからそういう  
意味で大いに期待します。  
これからの国土強靱化の  
中で期待したいというのは、  
とくに山間僻地などの防災  
です。12号台風もそうです  
が、いかにここで皆が安全  
に暮らすことのできる社会  
基盤をやるか、もちろん道



路が大事ですけども、それに加えて防災：。  
鈴木：災害対策ですね。

### 山村の復興には50年

村長：きちつとやっていく必要があります。林業をはじめ、いろいろ絡むんですよ。いま地方が荒れてるのは、やっぱり山の手入れができてないからでしょう。それが、国土を荒らす原因ですよ、

鈴木：山が手入れされないまま、放置されて災害を大きくしてしまふ。

村長：経済的に成り立たな

いから山をほらくることになる。山村の復興というのは、林業をきちつとやることが、まず大前提なんですね。ある程度林業で成り立つようになれば山の手入れもする。もちろんそこには税金を投入して、そして守れば土砂災害も防げる、当然、水源涵養ができる、それがしつかりできればCO<sub>2</sub>も減るちゆうことですから。ただ、こんな効果が出るのは、相当時間かかりますからね。1年や2年でそういう効果は出るわけではない、山を元に戻そうと思つたら50年ですよ。今、荒れとる山は、これ50年前ですわ。戦後どんどんどん木を植えろといつて植林した結果、いまになって皆売れなくなつたでしょう。で、皆山を手入れしてない、だからほらくり、ほらくるからどんどん山が荒れるからどんどんどんん災害が出る。もう、悪い循環をしていますわな。やっぱりこれを断ち切る必要があるけど、これを元に戻すのはやっぱりまた50年かかると思ひますよ。

鈴木：そういう長期的なも

のと、中期、短期的な山村復興対策があると思ひます。村長：それは、一朝一夕でやつたからすぐ効果が出るというものではありません。鈴木：山村が元気になるというのは、やはり基幹産業だった、地域を支えた林業を、もう一度再生するつてことですよね。

村長：まあ、第一次産業ですよ。農、林、こは水産ありませんけどね、農、林、こは元々は林1本です。

鈴木：もう一度、林業が活性化されれば、やっぱり、村づくりには必要ですわ。

村長：基幹産業の林業が復活するんならね、大きく村の構造は変わると思ひます。いまは観光立村でいきますけどね、本来、かつてはこは林業が栄えた裕福なとこだったわけですからね。ここの地域のあり方はそれが基本だというように思ひますよ。

### 道州制は反対、過疎化に拍車

#### 過疎化に拍車

鈴木：確かに、そうです。

ところで、安倍政権のもとで地方分権が言われ道州制

の議論なども始まつたりしていますわ、村長どのようにお考えでしょうか。

村長：地方分権はね、ものごとをきつちりやつていただけのんなら、賛成します。というのは、何でもかんでも地方にもつてくるという論理は僕、反対。やっぱり国がやるべきこと、地方がやるべきことをきちつとやって、そしてその分を地方にきちつと任せるんなら、この分権はいいと思ひますよ。ただ、いまはちよつとね、議論してるけど、大阪の橋下さんなんかは、広域事業と絡んで、何でもかんでもとにかく一括持つていかね、いうのあるでしょ。これは、乱暴やなど。やっぱり国がやることはあります。国はきちつとやって、地方でやるべきことは地方でやる、これがきちつと仕分けできるんなら、分権はいいと思つてる。

鈴木：なるほど。

村長：ただ、そういう意味では、僕は道州制自身は反対ですわ。

鈴木：反対ですか。

村長：反対です。道州制は、まず、僕は、ここの地方だ



けを考えますからね。僕はあくまでも北山村長なんだから、国のことを考える必要、別がない。北山がどうかということはいまより反対です。必ず、いまよりもつとつと集中化が激しくなります。ますます過疎化がひどくなります。これはもう、まず間違いない。

鈴木：なるほど。

村長：と、僕は思ひます。道州制になつたらこは関西州、中心は大阪ですよ。

大阪以外に入る予定ないじゃないですか。ますますその現象は強くなりますね。いま、東京へ行きよるでしょ。ほら、大阪が州都になつたらね、そつちの影響が出ます。ますます過疎化が進む。ただ大きな点では、いかに地方と都市とをきち

つと棲み分けできるか、そういう制度をきちつとやって、地方が生き残れることをやってくれるなら賛成します。それが無い限り、ただ単に数集める道州制にして、大阪を州都にしてというようなことをやるんだつたら、僕は反対ちゅうことです。これは、はつきり申し上げます。

**鈴木：**北山村は現在、飛び地で広域の中に入っているわけですので、北山村は、受け入れられるのかと思っただんですが、違いますか。

**村長：**ああ、僕は違う、全く。これはもうはつきり、道州制だけは、僕ははつきりしてます。絶対反対やな絶対反対つていう、理由はこうですよ。ますます、今よりまずひどくなる。その前提は、いまも言ったように、きちつとした、各地域との役割分担をきちつとやってくれる、それができるんならね、それは賛成します。たぶん、それは考えられない。

**鈴木：**都市と地方がともに栄える棲み分けは、これからも難しい、か。

**村長：**たぶん言葉だけは言

うかわかりませんが、実際は、地方、山村はますさびれていくんだと思います。だから僕は反対というんです。

**鈴木：**なるほど。

**村長：**過疎化が、世の中の流れですからね。

**鈴木：**ジャパンシンドロームという言葉があります。

この村は：

**村長：**最先端ですね。

### 北山村の現在は 日本の未来の姿

**鈴木：**そういう意味では、日本の近将来の縮図が、この村ということになる。

**村長：**そうでしょうね。日本の将来は北山村みたらええんじゃないですか。

**鈴木：**北山村は、将来の日本を見るモデルであると。

**村長：**やっぱり持続可能な社会を作ることが大事です。防災・減災、そういうことも含めて、いまの国土強靱化もそうですけど、ね、国土強靱化というのは、いわゆる公共事業ばかりが目されるけれど、そうじゃない。地域の活性化もし、経済もまわしていこうというのが

国土強靱化です。どうも、国土強靱化つていうと、公共事業投資して、すぐバラマキかと、批判がすぐ出るでしょう。この地域にバラマキとかあり得ん。やつてもらいたいわけですから

ね、というふうに思います。いまも言ったように、国土強靱化の理念から言ったら、きちつとこの山林、地域を守つてね、そういう視点です。その結果、林業がうまく再生するんならね、再生してそれで地域が、経済がまわるといふなら、山村に持続可能な社会が作れる、可能性が生まれてくるということですよ。

**鈴木：**山村に生きる人たちが豊かさを実感し、安全・安心に生きていける地域社会の実現、そのためにはまづ林業の振興、生活基盤の充実が急務だということですね。山村は人が減り、高齢化がめざましい。

**村長：**そういう社会が、大事じゃないですか。そのためには、国がしっかり、その出したメッセージを出して、しっかりした施策を出してほしい。もちろん、村の行

政が住民、地域のためになくてはならないことは、あります。それは、きちつとやります。

**鈴木：**今日は、多岐にわたる質問にお答えいただき、ありがとうございます。

**村長：**こちらこそ、ありがとうございます。